比羅時報 臨時版 一九四二年 第十四號 十一月廿五日

祝感謝祭

感謝の日

カクタスを倒し、木の根を覆す、電気鋸は軋り、ハムマーは響く、実に素晴らしい創作である。

農園では色彩とりくの野菜が獲れ、線滴る牧草は坦々たる廣野に展がる、斯くて浜野千里の新ヒラは戦禍を他所に駸々子として拓かれて行く、逞しき生命の躍動が、今朝も亦深刺として拡げられて行く。

日本人に依るアリゾナの新天地は往年の清教徒による新英州でなければならぬ。

騎馬巡査を飛ばして 境界線に赤信號

＝うっかりすると生温しくないと警告＝

サンクスギビングであらうと規則は規則、断じて甘やかす訳には参らぬと、陸軍のきついお達しが来た。これは禁札が立つて居る当轉住所の境界線の工犯である、同胞にして若し之れを越えて外に出る人があったなら今後は用捨なく臭い飯を食はすぞと云ふ訳である。日英両文の白い禁札が監視する許りでなく、これからはお馬に乗つたワーデンが日夜警戒して、同胞をして過なからしめんとする事になった、一般は心して当局の方針に協力せねばならぬ。

大地を蹴って女王は進む 感謝の聲も高らかに

比良は開闢以来の大はしやぎ

轉住所初めての感謝祭は明朗なヒラ日和の裡に足音高く迫って来た、一世も二世も、老も若きも感謝の裡にこの日を愉快に過そうではないか、当日のプログラムを追って見ると、

前奏曲

先づブテ側では十一月廿五日午後七時半より、一世慰安の夕五十二後の廣場と、收穫祭女王戴冠式、四十一食堂、仝時刻、華々しいプログラムで其幕は切って落される。

行進は豪華

翌廿六日感謝祭当日には、行教は六十三会館、基教は五十二廣場で午前九時から厳粛な感謝礼拝を以てその蓋を開け、続いて十時半より行進が行はれる。行列は先づ少年団の楽隊が先頭の女王に続き、在郷軍人団、騎馬巡査、ハイスクール山車、比良時報社、ヒラ小学校、日本美術第一部、佛教会山車、日本美術第二部、基教少女団、少女運動テイム、市民協会山車、農業經営部第一、食堂運用部、農業經営部第二等の炯燦たる行進である。午后一時から十時迄では展覧会がある。午一時からは又六十二[illegible]激刺たる運動のプログラムがある。角力は一時から、ボクシングは二時から、女学生のバレーボールは一時から、バスケットボールも一時から続いて旗祭が三時半に行はれ、フットボールは三時三十分からである。碧空の下に逞しい筋肉の魅力は我等の血と肉を踊らせる事であらう。夕刻七時から五十二の廣場で二世ターラントショウがありこれを以て幕を閉ぢる筈である。

○收穫祭女王

△第一館府 藤重妙子 石野千恵 田上ペギー 高山アイリン 三浦チャネット

△第二館府 山口トリエ 山口正子 前山ヒデコ 増本トシコ 荒木ルース

キヤネルは收穫祭

キヤネル側は廿五日戴冠式舞踏会が十六の食堂で行はれ八時演芸会がある。翌廿六日午前九時から十時迄で感謝祭の式典がある。続いて角力があり正午に及ぶ。仝時にバレーボール蹴球飛行機模型競技、柔道示技がある。

午后は一時から二時半迄行列、一方軟球競走もある。夜は常設館で第二世のターラントショウ、呼び物の福引がある。

カニバルは十三食堂で朝から晩十時までぶっ通し、珍品陳列も一緒にやる。比良は文字通り歓喜の坩堝だ。